

マーケットの動き（2022年3月14日～3月18日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

FOMC（米国連邦公開市場委員会）では想定通り利上げが決定され、金融引き締めに積極的な姿勢が示されました。FRB（米国連邦準備制度理事会）議長が会見で米国経済に強気の見方を示したほか、ウクライナ侵攻の長期化によるインフレの高止まり懸念から、米国金利は上昇しました。

ドイツ国債市場も、金利は上昇基調で推移しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2022年3月）

長期金利は米国、欧州（ドイツ）ともに方向感に欠ける展開

米国：FRB（米国連邦準備制度理事会）が景気を冷え込ませるほどの拙速な金融引き締めを行うことはないとみており、長期金利は持続的な景気拡大を確認しつつ、緩やかな上昇基調になるとみえます。ただし、当面はウクライナ情勢の動向や、FRBによる金融政策正常化の先行きから長期金利は上下しやすく、変動率が高い状況の中で方向感に欠ける展開を予想しています。

欧州：欧州（ドイツ）長期金利は、ウクライナ情勢や、ECB（欧州中央銀行）による金融政策正常化の先行き、エネルギー価格や物価指標を注視しつつ、方向感に欠ける展開を予想しています。

	3月18日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	2.15	0.15	0.22	0.84	0.43
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	506.80	1.68%	0.94%	0.03%	1.61%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

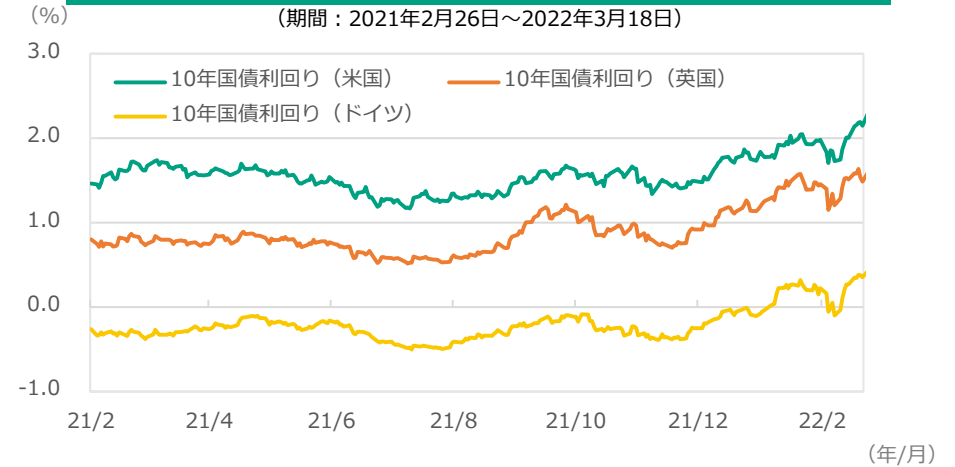
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202203_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2021年2月26日～2022年3月18日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2021年2月26日～2022年3月18日）



※2021年2月26日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成